リスクに効く心理学



NO.10
災害リスク・マネジメント①

中央大学
CHUO UNIVERSITY
大友章司

1 人間行動の特徴から災害リスク・マネジメントを考える

災害への対応を遠ざける心理行動の特徴に応じたアプローチ

行動リスク監査(Meyer & Kunreuther, 2017)
さまざまな災害に対する個人や集団の現状を分析し、そこに潜む弱点を理解し、改善方法を示すための系統だった枠組

↑従来の災害対策アプローチ
リスクを下げるために人々が受け入れそうな安全対策を考える。

➡ **人間の意思決定バイアスに応じた形で行動変容を考える、一種のナッジ（自発的な行動選択方略）と位置付けられる。**



Meyer, R., & Kunreuther, H. (2017). The Ostrich Paradox: Why We Underprepare for Disasters. Wharton School Press

>行動リスク監査の構造

災害そのものへの対策ではなく、それに備えたり、災害に反応する「人間」に焦点を当てることで、行動を選択するための仕組みをデザインしていく。

Step1
バイアスのリストアップ



ハザードへの備えをおろそかにする心理行動バイアスをリストアップ

Step2
リスク認知への影響を描き出す



ハザードのリスクを過小評価するバイアスの影響を検討する。

Step3
災害準備への影響を分析する



歪んだリスク認知が災害準備計画にマイナスに作用するのか評価する。

Step4
対応策の設計

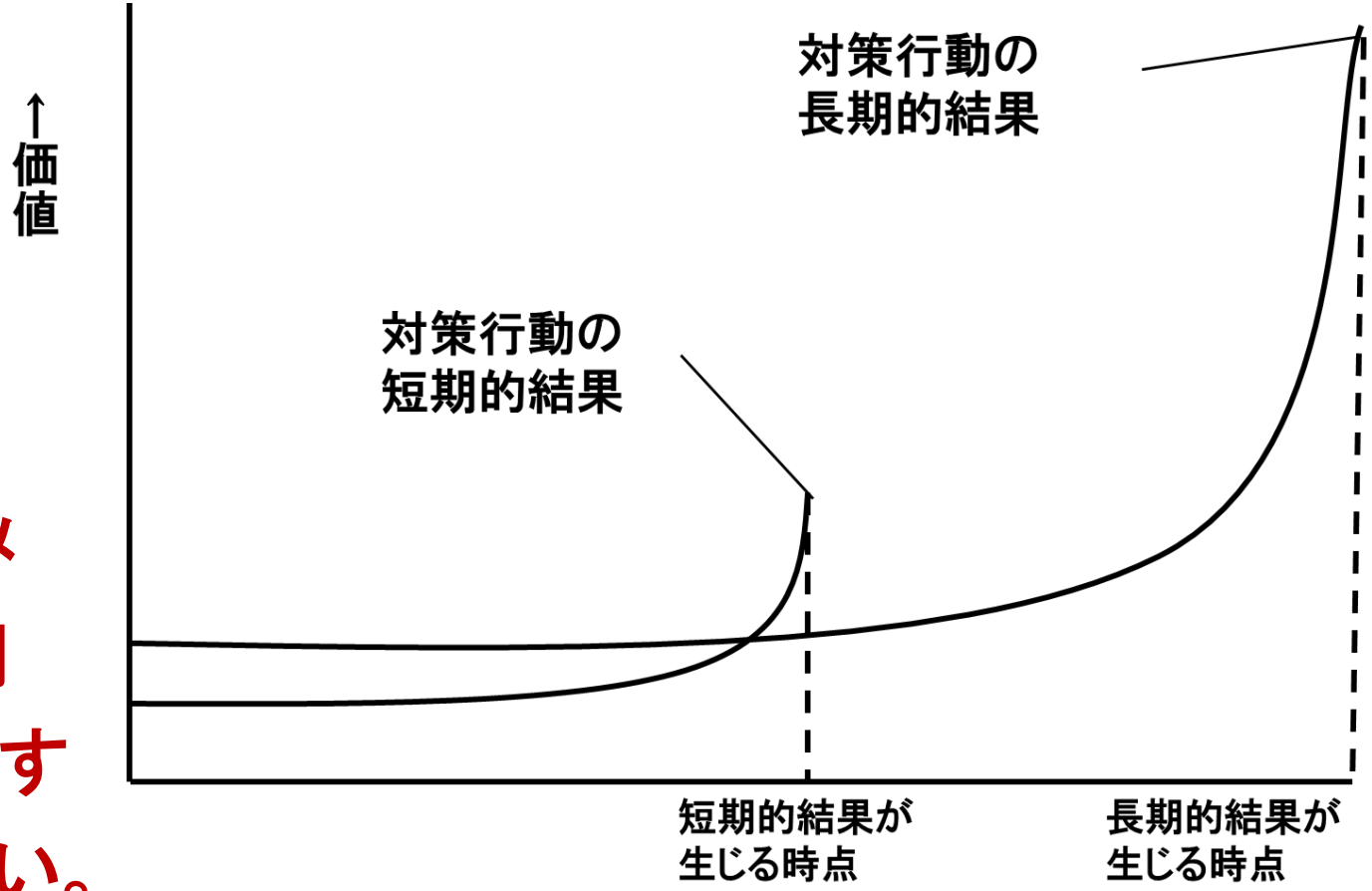


適切な行動へ誘導できる仕組みを計画する。

2 目先の負担を嫌がる傾向

近視眼的思考癖：災害対策の負担と潜在的ベネフィット(安全)を比較すると、目先の負担の方を優先して判断してしまう傾向





災害対策では、「被害を避けられるメリット」よりも、今すぐ必要になる費用や手間の方を一時的に大きく感じやすいため、行動の先延ばしが生じやすい。

>近視眼的思考癖における解釈レベル理論

解釈レベル理論(construal level theory)

対象への心理的距離によって考える内容の具体性が変化する。心理的距離が遠い(将来)と抽象的(高次の解釈レベル)、心理的距離が近い(現在)と具体的(低次の解釈レベル)な内容で考える傾向が強くなる。

ハリケーンサンディの調査(Meyer et al., 2014)

台風上陸の48時間前に、避難命令が出たら避難するかを尋ねたら60%の住民がそうすると答えた。しかし12時間後の命令が出た際に避難した住民は19%であった。



➡ 将来の危機では「避難すべき」と抽象的に考えやすいが、脅威が切迫すると具体的な問題(いつ、どこ、面倒)を考えるようになり、避難行動が遠ざかる。

3 教訓そのものが過去になってしまう

忘却癖：過去の災害の教訓をあまりにも早く忘れてしまう傾向

1933年の地震津波で人口の43%が犠牲になった岩手県宮古市で、2011年の東日本大震災の津波で420名が犠牲。

誤った学習経験

安全のために行動しても何も報酬がなく、行動しないで安全でいることのほうが報酬となってしまう。

↓

被害を受けたときの感情的な衝撃をすぐに忘れてしまう傾向と、災害対策を実施しても報酬が得られないことの方が多い。

>災害経験から学習することが苦手

大災害がめったに起こらないため、「無かった経験」から勘違いが生じる。

災害保険の研究(Michel-Kerjan et al., 2012)



ハリケーン直後の洪水保険への加入が増加したものの、3年後には災害前の水準に戻った。

↑保険に加入していても、災害がないとメリットを実感できない。

Michel-Kerjan, E., Lemoyne de Forges, S., & Kunreuther, H. (2012). Policy Tenure Under the U.S. National Flood Insurance Program (NFIP). Risk Analysis, 32(4), 644-658.

避難行動の関連要因の研究(Huang et al., 2016)

ハリケーン襲来時の避難行動の研究として、過去の被災経験と避難行動の明確な関連が確認されていない。

➡ 災害対策の効果を実感する機会がないことや、被災経験の時点から長く経過していることが学習の障害となる。

Huang, S.-K., Lindell, M. K., & Prater, C. S. (2016). Who Leaves and Who Stays? A Review and Statistical Meta-Analysis of Hurricane Evacuation Studies. Environment and Behavior, 48(8), 991-1029.